

アフリカへの技術協力

横浜市は人口急増に伴うインフラ不足や環境問題などさまざまな都市課題を乗り越え、成長を続けてきました。こうした成長の過程で積み重ねてきた経験や技術を活かし、独立行政法人国際協力機構（JICA）や政府、国際機関と連携してアフリカへの技術協力を進めています。

廃棄物管理分野

2001年度以降の10年で約43%のごみを減量した横浜市の経験をもとに、環境省・JICA・アフリカ各国等と共同で設立した「アフリカのきれいな街プラットフォーム（ACCP）」を通じて、アフリカ各国・都市の関係者を対象に、廃棄物管理に関する研修を実施しています。



収集事務所の視察（2025年8月）



ワークショップの様子（2025年9月）

水道分野

日本で初めて「近代水道」が創設された横浜市では、1977年にケニアへ職員を派遣して以来、アフリカへの水道分野の協力を続けています。2025年3月末までにアフリカ47か国から延べ764人の研修員を受け入れ、横浜市からも延べ97人の職員をアフリカ14か国に派遣しています。特にマラウイには継続的に職員を派遣し、JICA技術協力プロジェクトにも協力してきました。



マラウイでの活動（2024年7月）



横浜でのアフリカ各国の技術者研修
（2024年11月）

港湾分野

毎年アフリカ各国から研修員等を受け入れています。講義では、横浜港の港湾整備開発状況・港湾計画・物流施策・カーボンニュートラルレポート形成の取組等について紹介し、視察ではコンテナターミナルやクルーズターミナルを案内しています。2024年度は、アフリカから12か国41名の視察・研修生を受け入れました。



ベイサイドマリーナでの研修受け入れ
（2024年7月）



JICA研修生に対する講義の様子
（2025年1月）